

- メルコスールの首脳らは7月1日、日本とのEPA交渉開始を正式に決めた。メルコスールにはブラジルをはじめ農畜産物の生産大国が多く、農水省の分析では、牛肉の輸出価格が国産の半額未満のケースもあるなど、価格競争力も高い。関税の削減・撤廃などが進めば日本農業にとって脅威になる見通し。
- 日本側は原油やレアアース（希土類）といった重要物資の安定調達などに期待を寄せる一方で、メルコスール側は牛肉など農畜産物の輸出拡大に強い関心を示す。
- メルコスールとの交渉正式決定を受け、自民党TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部において、メルコスール加盟国を「農畜産物の生産量が桁違いに大きい輸出大国」と強調し、国内農業への打撃を懸念し、政府に対し「国益がいささかも損なわれなるような合意」を絶対しないようくぎを刺した。

メルコスール加盟国の農産品の輸出量・単価と日本産の比較

牛肉						
	ブラジル	アルゼンチン	ウルグアイ	パラグアイ	日本	
輸出量 (対世界)	307万t	54万t	37万t	34万t	35万t ※2	
輸出※1 単価	806円/kg	811円/kg	1,026円/kg	893円/kg	2,175円/kg ※3 (乳用種、肩ロース)	
豚肉		鶏肉		砂糖		
	ブラジル	日本	ブラジル	日本	ブラジル	日本
輸出量 (対世界)	120万t	90万t ※2	497万t	173万t ※2	3,570万t	64万t ※2
輸出※1 単価	383円/kg	751円/kg (モモ) ※3	264円/kg	392円/kg (ムネ) ※4	63円/kg	249円/kg (卸売価格)

※1 農産品価格と船に積み込まれるまでにかかる国内輸送費、梱包費などを含んだ価格。輸出先への海上運賃や保険料などは含まれない ※2 生産量
※3 部分肉卸売価格、仲間相場 ※4 卸売価格、仲間相場 (出所: 農水省)

期待する項目

日本

重要鉱物・エネルギー・穀物の安定確保
工業製品の市場アクセス改善
投資・ビジネス環境の改善

メルコスール

農産物の日本市場へのアクセス拡大
資源・一時産品の輸出拡大
日本からの投資・技術導入

【重要5品目等に関するメルコスールの輸出概況】

品目群	概況
米 関係	主な輸出先 セネガル30.9万トン、ベネズエラ21.9万トン、メキシコ21.4万トン、チリ19.6万トン、コスタリカ17.5万トン (日本向けは85万トンで、107カ国中50位)
	特徴 メルコスールの米は長粒種が中心であるが、有数の米輸出国であるウルグアイでは、中粒種・ジャボニカ系品種も一定生産。 ブラジルからの中低価格帯の碎米等の輸出が多く、西アフリカや中南米諸国が主な輸出先。
麦 関係	主な輸出先 インドネシア183.4万トン、バングラデシュ161.5万トン、サウジアラビア151.9万トン、ベトナム150.3万トン、アンゴラ68.7万トン (日本向けは266万トンで、102カ国中34位)
	特徴 アルゼンチンからの小麦輸出が主力であり、人口規模が大きく経済成長が著しいアジア・中東諸国が主な輸出先。
牛肉 関係	主な輸出先 中国214.7万トン、米国32.8万トン、チリ26.0万トン、イスラエル12.1万トン、メキシコ12.1万トン (日本向けは33万トンで、135カ国中103位)
	特徴 中国向け輸出が圧倒的。ただし、中国が2026年1月より輸入牛肉に対するセーフガード措置(*)を発動した中で、ブラジル牛肉輸出業協会のペロウザ会長は、日本への輸出も含め、市場の多角化が重要だと指摘。 検疫上の問題で、日本は現在、ウルグアイ及びアルゼンチン南部地域以外からの輸入を禁止中。
豚肉 関係	主な輸出先 フィリピン34.1万トン、中国13.8万トン、チリ11.6万トン、日本11.4万トン、香港9.4万トン
	特徴 ブラジル産を中心にアジア圏が主な輸出先。日本は既に第4位であり、主要な輸出先の一つ (日本の輸入先としてブラジルは、カナダ、米国、スペインに次ぐ4位)。

*内臓以外の牛肉の総輸入割当量である約270万トンを各国に割当て、それを超えたものには55%の割当超過関税を適用。

品目群	概況
乳製 品 関係	主な輸出先 アルジェリア7.4万トン、中国3.3万トン、チリ2.5万トン、ロシア0.4万トン、米国0.3万トン (日本向けは243万トンで、106カ国中23位)
	特徴 粉乳などの需要が高い北アフリカ (アルジェリア)、中国、チリが主な輸出先。乳製品は他の品目と比較して域外輸出の絶対量はそれほど大きくない。
甘味 関係	主な輸出先 中国473.9万トン、インド262.9万トン、アルジェリア212.3万トン、バングラデシュ208.2万トン、インドネシア193.9万トン (日本向けは1,967万トンで、144カ国中89位)
	特徴 世界最大の砂糖輸出国であるブラジルが牽引。
鶏肉 関係	主な輸出先 アラブ首長国連邦47.9万トン、日本40.0万トン、サウジアラビア39.7万トン、南アフリカ35.9万トン、フィリピン26.8万トン
	特徴 ブラジルの鶏肉産業界はハラール認証を取得した巨大な処理施設を持ち、中東市場で圧倒的なシェア。日本は既に第2位であり、主要な輸出先の一つ。
オレンジ 果汁 関係	主な輸出先 米国138.0万トン、ベルギー41.6万トン、オランダ33.7万トン、スペイン3.7万トン、中国2.2万トン (日本向けは1.4万トンで、75カ国中6位)
	特徴 ブラジルは世界最大のオレンジ果汁輸出国。特にフロリダ州のハリケーンや病害 (柑橘グリーニング病) によるオレンジ減産に苦しむ米国向けが圧倒的な1位。また、ベルギーやオランダといった欧州の港湾拠点向けへの輸出も多い。

メルコスールとEUとの貿易協定に関するJA全中分析

- JA全中がメルコスールとEUとの貿易協定に関する分析をまとめた。
- 日本はEPA交渉入りを決めたが、交渉次第では農業への影響が懸念されるため、全中はメルコスールとの貿易交渉を1999年に始め、今年1月に署名したEUについて、農業団体への聞き取りで影響をまとめた。
- EU側は畜産で価格競争をはじめ、食品安全や家畜伝染病の面でも懸念を抱えると指摘し、南米の大規模・多国籍企業とEUの中小農家が競争する構図になり、関税などでは競争条件を十分に埋められないとの声もあった。

EUの農業団体が抱えるメルコスールへの懸念

- 牛肉など畜産で価格の押し下げ圧力、ホルモン剤管理、トレーサビリティを不安視
- 鳥インフルエンザの監視体制や食品安全
- 砂糖生産でEUで禁止されている農業の有効成分が使用可能
- 大規模・多国籍食肉企業と、EUの中小農家が競争する構図
- 環境規制や動物福祉などに関するEUの厳しい基準が十分に保証されていない
- 影響が出た場合のセーフガードの実効性

品目	EU農業への懸念
牛肉	● 関税枠は限定的とはいえ、高級部位市場に影響が集中することや、価格の全体の下押し圧力により、統計上の割合以上に畜産経営の収益性低下を懸念。 ● 特に、既存の枠が無税化され、他の協定の枠（例：豪州3.06万トン）に比べ大きな9.9万トンが加わることで、高級部位市場の影響が強まる。 ● ホルモン剤管理とトレーサビリティも問題視。 ● EU農業団体は、牛肉部門を最も影響が大きい分野の一つとみている。
鶏肉	● ブラジル産鶏肉等との価格競争、特にむね肉等の高付加価値部位への影響を懸念。 ● ブラジルの鳥インフルエンザ監視体制、食品安全監査、化学防除等の疑念も指摘。
豚肉・乳製品・卵など	● 直接の市場開放規模は品目ごとに異なるが、これらの品目も含めて複数の農畜産品で低関税又は無税の輸入枠が設定されることで、個別品目では限定的に見える影響が積み重なり、EU農業全体の価格形成や生産基盤に影響し得ると懸念。
米	● イタリア、スペイン、フランスなど米生産地域への価格競争圧力を懸念

【EU農業団体における品目横断的な懸念】

- ①価格競争力を持つメルコスール産農畜産物の輸入増加によるEU産農畜産物の価格等への影響に加え、EUの農家は、環境規制、動物福祉、農薬使用、労働基準、トレーサビリティ等の厳しい基準を課されている一方、メルコスール産品には同等の基準が十分に保証されていないため、EUの農業団体は、競争条件が対等ではないと指摘。
- ②公平性の問題については、生産基盤の違いだけでなく、産業構造の違いも問題視。
 - EUは家族経営や協同組合を基盤とする中小規模の生産者が多く、域内規制に対応しながら生産を継続。
 - ブラジルでは、ナショナルチャンピオン政策(※)で成長してきた大規模・多国籍食肉企業のJBS等が、規模の経済や国際的な販売網を活用して、競争力を高めてきた。(※)政府が**JBSのような特定の国内有力企業を重点的に支援し、国際市場で競争できる大企業に育成する産業政策**。
- ③このため、EU農業団体は、EUの家族経営農家が、国家的支援を背景に巨大化し、検査・監督体制への信頼性に疑義があるとも指摘されるブラジルの多国籍企業と競争させられる構図について、関税や食品安全基準だけでは競争条件の違いを十分に是正できないと主張。
- ④このほか、セーフガード措置や、森林破壊規制等の実効性を疑問視しており、協定によってEU農家への有害な影響が生じた場合の支援基金は根本的な解決策にはならないと批判。